

急性期・総合医療センター 臨床評価指標〈基本情報〉

項目	平成20年度 数値	平成21年度 数値	平成22年度 数値	単位	定義	備考
【入 院】						
稼動病床数	768	768	768	床		実際に使用している入院ベッドの数です。
延べ患者数	245,082	251,817	256,296	人		入院された患者さんの1年間の累計です。
1日平均入院患者数	671	690	702	人	延べ患者数/365	一日平均、何人の患者さんが入院されているかを示しています。
新入院患者数	15,194	16,083	16,600	人	期間中の入院患者数	1年間で新規に入院された患者さんの数です。
退院患者数	15,133	16,073	16,531	人	期間中の退院患者数	1年間に退院された患者さんの数です。
年齢階層別退院患者数(別紙1)					入院時点の年齢で集計する。	退院患者さんの年齢の特徴を示しています。
主要疾患別患者数(別紙2)					原則としてICD3析分類の上位20疾患とする	
疾病分類別患者数(別紙3)					ICD-10大分類別に集計する	主にどのような病気を扱う病院かを示しています。
病床利用率	87.4	89.8	91.4	%		平均して90%近くの入院ベッドが使用されている状況です。
平均在院日数	15.4	14.7	15.2	日	$\frac{\text{延べ患者数}-\text{退院患者数}+1\text{日入院数}}{(\text{新入院患者数}+\text{退院患者数})\div 2}$	急性疾患を取り扱うのか、慢性疾患を取り扱うのか、病院の特徴を示します。
病床回転率	20.7	22.9	22.1	%	$(\text{病床利用率}/100)\times 365/\text{平均在院日数}$	空きベッドの数も考慮して計算された、入院ベッドの利用効率を示します。急性疾患あるいは慢性疾患という特徴を示します。
入院外来比率	157.2	158.9	160.8	%	$\frac{\text{延べ外来患者数}}{\text{延べ入院患者数}}\times 100$	入院加療を中心とする病院か、外来診療を中心とする病院かという特徴を示します。
退院患者中の褥創(Ⅱ度以上)の院内発生率	0.55	0.48	0.37	%		
退院計画立案率	63.1	90.5	91.7	%		
退院サマリー完成率	95.9	77.4	73.6	%		
【外 来】						
新外来患者数	22,176	24,114	24,250	人	初診料を算定した外来患者数+他科の初診患者数(入院中の外来初診を含む)	1年間に新規に外来受診を行った患者さんの数です。
延べ患者数	385,262	400,048	412,105	人		外来受診された患者さんの1年間の累計です。
平均通院回数	17.4	16.6	17.0	回	延べ外来患者数/新外来患者数	ひとりの患者さんが1年間に何回通院されたかを示しています。
1日平均外来患者数	1,585	1,653	1,696	人	延べ患者数/診療日数	一日平均、何人の患者さんが外来受診されているかを示します。
紹介率	67.0	71.7	77.0	%		外来患者さんのうち、紹介されてこられる方の割合です。普段のかかりつけというような一次医療が中心か、専門的な病院かを示します。
逆紹介率	59.5	58.5	53.3	%		当センターから他病院への紹介の割合です。

急性期・総合医療センター 臨床評価指標〈基本情報〉

【死亡患者】

死亡退院数	667	676	646	人		当センターで1年間に死亡された患者さんの数です。
粗死亡率	4.4	4.2	3.9	%	死亡患者数／退院患者数×100	当センターに入院された患者さんの死亡の割合です。高度な医療を提供する病院では重症の患者さんを取り扱うことも多いので、この数字は高くなります。
精死亡率	2.6	2.5	2.3	%	(全死亡患者数－入院後48時間以内死亡)／退院患者数	入院して48時間以内の死亡は、病院内での診療を反映しないことも多いので、この死亡を除いた上での死亡率です。しかしながら、上記と同様に、高度な医療を提供する病院では重症の患者さんが増え、死亡率が高くなる傾向もあるため、必ずしも病院の診療レベルは反映しません。
剖検数	31	24	21	件		
剖検率	7.2	5.6	4.9	%	臨床研修指定病院の条件：剖検率が30%以上 ・剖検数/死亡退院患者数-検死患者数×100	「剖検」とは病理学的な解剖のことで、死亡した患者さんの死亡原因を詳しく調べる検査です。剖検数が多い病院は死亡原因解明のためにしっかりと取り組んでいるということも示しますが、ご遺族にとって複雑な思いを喚起させる検査でもあり、解釈には注

【手術】

施設基準に掲げる手術件数(別紙4)				件	医科点数表第2表第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術の件数(平成19年1月から12月までの件数)	難易度及び診療報酬上の点数単価が高い手術について、1年間に実施した件数です。(21年データ)
入院手術件数	5287	5616	5860	件	中央手術室利用件数	22年データ
全身麻酔件数	2658	2812	3044	件		22年データ
硬膜外併用脊髄くも膜下麻酔	173	159	77	件		22年データ
硬膜外麻酔	13	11	2	件		22年データ
脊髄くも膜下麻酔	470	546	506	件		22年データ
伝達麻酔	1	2	0	件		22年データ
その他の麻酔	13	14	3	件		22年データ

【医療安全】

医療事故発生件数	18	24	27	件	公表基準による医療事故(レベル3b以上)の年間件数 レベル3b:濃厚な処置や治療を要した事例 レベル4:患者に永続的な障害が残った事例 レベル5:死亡(原疾患の自然経過によるものを除く。)	医療事故をしっかりと把握し、その年間での件数を示しています。
----------	----	----	----	---	---	--------------------------------

急性期・総合医療センター 臨床評価指標〈基本情報〉

【その他】

研修医受入れ人数	48	41	41	人	各月1日における人数の平均 <基幹型臨床研修病院>	病院として、医師の教育に積極的に取り組んでいるかを示しています。
レジデント受入れ人数	48	44	51	人	各月1日における人数の平均	
指導医数	15	30	33	人	※指導医は、臨床研修病院の基準にあるように、7年以上の臨床経験を有するものであって、プライマリケアを中心とした指導を行うことができる経験及び能力を有し、指導医養成講習会受講した者(届出数)平成20年からの定義	
医療相談件数	20,232	22,406	24,832	件	医療相談室等で受けた相談件数(医療相談の専任者が実施する場合を含む)	社会財政面での患者さんの支援の体制を示しています。
医療相談件数のうち医療ソーシャルワーカーが受けた件数	20,232	22,406	24,832	件		
セカンドオピニオン件数	21	23	30	件	新規相談件数	
患者対看護職員数	10:1	7:1	7:1		看護体制(一般病棟)	看護体制の充実度を示しています。
	15:1	15:1	10:1		看護体制(精神病棟)	
認定看護師数	8	11	13	人	日本看護協会が定める認定看護師の有資格者数(H22.3.31現在)	
専門看護師数	0	0	0	人	日本看護協会が定める専門看護師の有資格者数(H22.3.31現在)	
継続看護の実施件数	576	623	656	人	在宅療養指導料(B001-13)算定患者数	在宅での療養支援に積極的に取り組んでいるかを示しますが、病院の扱い疾患の特徴にも左右されます。
認定実務実習指導薬剤師	1	4	5	人	日本薬剤師研修センターが定める実務実習指導薬剤師の有資格者	
がん専門薬剤師	-	2	2	人	日本医療薬学会が定めるがん専門薬剤師の有資格者	
がん指導薬剤師	-	2	2	人	日本病院薬剤師会が定めるがん薬物療法認定薬剤師の有資格者	
がん薬物療法認定薬剤師	2	2	2	人	日本病院薬剤師会が定めるがん薬物療法認定薬剤師の有資格者	
精神科薬物療法認定薬剤師	-	0	1	人	日本病院薬剤師会が定める精神科薬物療法認定薬剤師の有資格者	
認定CRC	1	1	1	人	日本臨床薬理学会が定める認定CRC(Clinical Research Coordinator)の有資格者	
研修認定薬剤師	7	8	7	人	日本薬剤師研修センターが定める研修認定薬剤師の有資格者	
院外処方せん率	87	86.8	87.4	%	院外処方箋枚数/外来処方箋枚数	医薬分業に積極的に取り組んでいるかを示しています。ただし、まれな疾患にしか使わない薬を多く処方される病院もあります。
診療情報の開示件数	41	56	101	件	年間の総開示件数	
治験実施件数	43	45	49	件	※「治験契約件数」はプロトコル数。また、新規契約件数と以前からの契約件数(複数年度契約の場合)。(臨床試験は除く)	

急性期・総合医療センター 臨床評価指標〈基本情報〉

クリニカルパス種類数	500	538	774	件	各年度末における作成数	
クリニカルパス適用率	82.9	82.9	82.0	%	クリニカルパス適用患者数/新入院患者数	医療の標準化に積極的に取り組んでいるかを示しています。ただし、高度な医療を提供する病院では適用が難しい場合も多くあります。
放射線治療件数	6,644	7,410	3,159	件	年間実施件数	
CT撮影件数	22,240	24,050	24,110	件	年間実施件数	
MRI撮影件数	11,048	10,534	9,907	件	年間実施件数	
職員のインフルエンザワクチン接種率	80.0	86.3	90.3	%	自施設でインフルエンザワクチンを接種した職員数(分子)/院内職員対象インフルエンザワクチン接種を開始した月の初日に在職している非常勤職員を含む病院職員数(派遣職員を除く)(分母)	インフルエンザワクチンを接種した職員の割合を示します。
職員の健診受診率	98.2	95.6	95.9	%	事業所健診の受信者数(分子)/健診対象職員数(4月時点)(分母)	健康診断を受診した職員の割合を示します。

別紙1 年齢階層別退院患者数(平成22年度)

年齢階層	男	女	合計	(うち死亡患者数)
28日未満	104	101	205	
1歳未満	210	148	358	2
10歳未満	739	584	1,323	1
20歳未満	214	215	429	3
30歳未満	158	442	600	13
40歳未満	299	673	972	12
50歳未満	485	513	998	32
60歳未満	825	584	1,409	63
70歳未満	2,018	1,297	3,315	134
80歳未満	2,541	1,946	4,487	215
80歳以上	1,173	1,263	2,436	171
合計	8,766	7,766	16,532	646

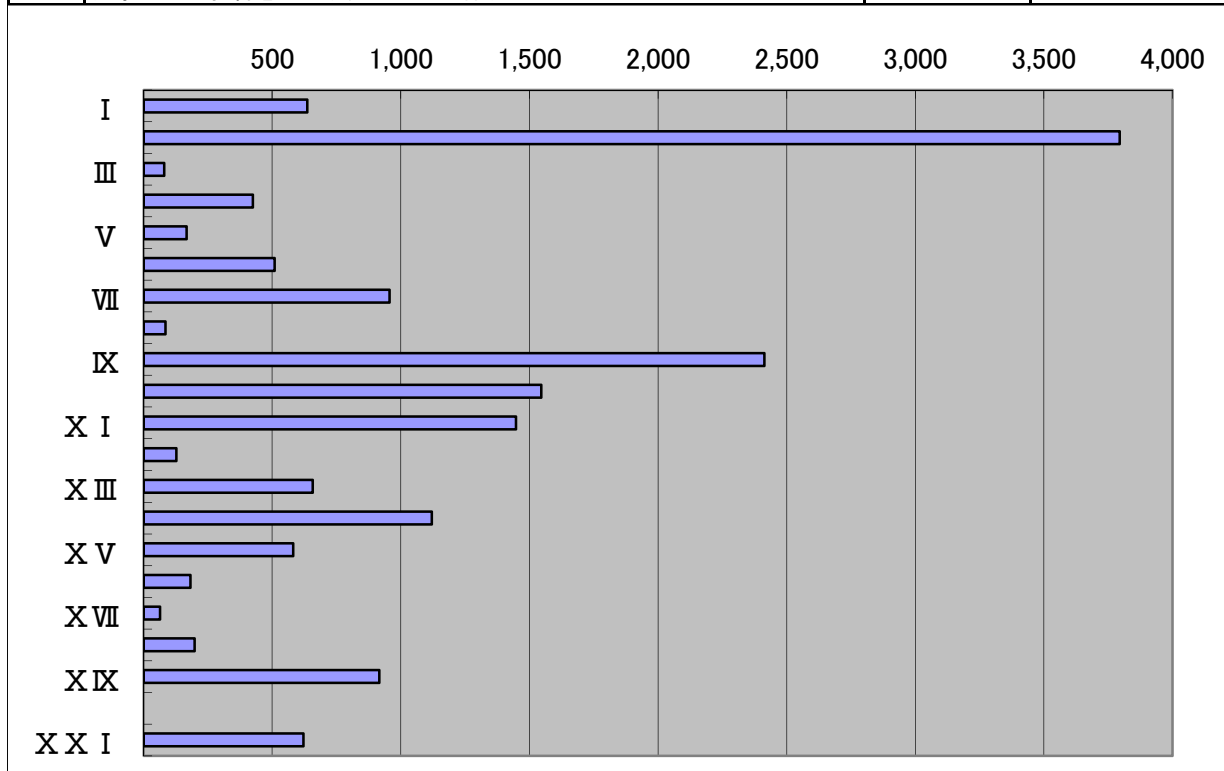
※年齢は入院時年齢による

別紙2 主要疾患別退院患者数(診療科別)

疾病順位 科 別	1 病 名 件数	2 病 名 件数	3 病 名 件数	4 病 名 件数	5 病 名 件数
内 科	C34:気管支および肺の悪性新生物 409	J10-J18:インフルエンザおよび肺炎 98	J40-J47:慢性下気道疾患 43	J93:気胸 35	J69:誤嚥性肺炎 29
消化器内科	C15-C26:消化器の悪性新生物 655	D10-D36:良性新生物 400	Z03消化器の悪性新生物の疑いに対する観察 297	K80-K87:胆のう、胆管および膵の障害 241	K20-K31:食道、胃および十二指腸の疾患 153
糖尿病・代謝内科	E10-E14:糖尿病 797	O24:妊娠性糖尿病 14	E16:低血糖症 7	R73:血糖値上昇 4	E70-E90:代謝障害 3
免疫リウマチ科	M30-M36:全身性結合組織障害 41	M05-M06:関節リウマチ 37	J40-J47:慢性下気道疾患 33	J10-J18:インフルエンザおよび肺炎 11	D69:紫斑病およびその他の出血性病態 7
神経内科	I60-I69:脳血管疾患 235	G20:パーキンソン病 86	G10-13:主に中枢神経系を障害する系統萎縮症 59	G40:てんかん 47	G61-G63:多発性ニューロパチー 35
外 科	C15-C26:消化器の悪性新生物 671	K80-K87:胆のう、胆管及び膵の障害 118	K40-K46:ヘルニア 117	C50:乳房の悪性新生物 96	D10-36 良性新生物 63
脳神経外科	I60-I69:脳血管疾患 266	D10-D36:良性新生物 37	S00-S09:頭部損傷 30	C793:転移性脳腫瘍 14	G91:水頭症 9
整形外科	M15-M19:関節症 256	M45-M49:脊椎障害 125	T84:人工関節の合併症 40	S72:大腿骨骨折 22	M50-M51:椎間板ヘルニア 20
精神科	F20-F29:統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 135	F30-F39:気分[感情]障害 74	F00-F09:症状性を含む器質性精神障害 66	F40-F48:神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 59	F10-F19:精神作用物質使用による精神および行動の障害 36
産婦人科	C51-C58:女性生殖器の悪性新生物 245	N80-N98:女性生殖器の非炎症性障害 151	D10-D36:良性新生物 143	O80:完全な正常例における分娩 137	O42:前期破水 120
小児科	J10-J18:インフルエンザ及び肺炎 381	A00-A09:腸管感染症 248	J20-J21:急性気管支炎、急性細気管支炎 239	J45-J46:喘息 169	J00-J06:急性上気道感染症 113
耳鼻咽喉・頭頸部外科	J00-06,J30-39:上気道の疾患 186	C00-C14,C30-39:口腔、咽頭および呼吸器の悪性新生物 83	G47:睡眠障害 43	H912突発性難聴 34	D10-D36:良性新生物 27
眼 科	H25-H28:水晶体の障害 801	H30-H36:脈絡膜および網膜の障害 71	H40-H42:緑内障 21	H43-H45:硝子体および眼球の障害 12	H46:視神経炎 3
皮膚科	L03:蜂巣炎 10	B02:帯状疱疹 5	L12:類天疱瘡 3	E11:インスリン非依存性糖尿病性壊疽 3	A30-49:細菌性疾患 2
泌尿器科	C60-C63:男性生殖器の悪性新生物 241	C64-C68:尿路の悪性新生物 205	N40:前立腺肥大症 136	N10-N16:腎尿管間質性疾患 107	N18:慢性腎不全 101
腎臓・高血圧内科	N17-N19:腎不全 740	N00-N08:糸球体疾患 119	E70-E90:代謝障害 31	I10-I15:高血圧性疾患 9	T86:移植臓器および組織の不全および拒絶反応 7
心臓内科	I20-I25:虚血性心疾患 908	I50:心不全 199	I48:心房細動および粗動 135	I70:アテローム硬化症 95	I47:発作性頻拍 66
心臓血管外科	I70-I79:動脈、細動脈及び毛細血管の疾患 123	I34-I36:心臓弁障害 33	I20-I25:虚血性心疾患 31	T80-T88:術後合併症 15	I05-09:急性リウマチ熱 7
救急診療科	I46:来院時心呼吸停止(原因不明) 140	S00-S09:頭部損傷 132	T36-T50:中毒 109	S30-S39:腹部、下背部、腰椎及び骨盤部の損傷 45	S20-S29:胸部損傷 44
歯科・口腔外科	K00-K14:口腔、唾液腺及び顎の疾患 178	C00-C14:口唇、口腔及び咽頭の悪性新生物 52	S02:顔面骨骨折 28	D10-D36:良性新生物 11	Z47:顎プレート除去に関する経過観察 9
形成外科	Z42:形成手術後のフォローアップ 50	D10-D36:良性新生物 41	H00-H06:眼瞼、涙器及び眼窩の障害 35	I83:下肢の静脈瘤 29	C43-C44:悪性新生物 19
放射線治療科	C77-C79:続発性悪性新生物 47	C30-C39:呼吸器及び胸腔内臓器の悪性新生物 39	C15-C26:消化器の悪性新生物 27	C51-C58:女性生殖器の悪性新生物 18	C00-C14:口唇、口腔および咽頭の悪性新生物 16
リハビリテーション科	I69:脳血管疾患の続発後遺症 94	T90-T98:外因による影響の続発、後遺症 82	M62:廃用症候群 16	G04-G95:神経系の障害 16	M45-M49:脊椎障害 13
障がい者歯科	K02:う蝕 15	K010:埋伏歯 5	K040:歯髄炎 5	K081:欠損歯 3	K053:歯周炎 2

別紙3 疾病分類別患者数・平均在院日数(平成22年度退院患者)

	分類	患者数	平均在院日数
I	感染症及び寄生虫症(A00-B99)	637	10.9
II	新生物(C00-D48)	3,795	16.5
III	血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害(D50-D89)	80	15.2
IV	内分泌、栄養および代謝疾患(E00-E90)	425	16.6
V	精神および行動の障害(F00-F99)	167	31.6
VI	神経系の疾患(G00-G99)	510	22.9
VII	眼および付属器の疾患(H00-H59)	956	5.9
VIII	耳および乳様突起の疾患(H60-H95)	85	11.9
IX	循環系の疾患(I00-I99)	2,413	17.0
X	呼吸系の疾患(J00-J99)	1,546	10.3
X I	消化系の疾患(K00-K93)	1,448	12.5
X II	皮膚および皮下組織の疾患(L00-L99)	128	18.6
X III	筋骨格系および結合組織の疾患(M00-M99)	657	31.8
X IV	尿路生殖系の疾患(N00-N99)	1,121	15.0
X V	妊娠、分娩および産褥(O00-O99)	582	7.3
X VI	周産期に発生した主要病態(P00-P96)	182	13.8
X VII	先天奇形、変形、および染色体異常(Q00-Q99)	64	10.6
X VIII	症状、徴候および異常臨床所見・異常検査所見(R00-R99)	198	6.6
X IX	損傷、中毒およびその他の外因の影響(S00-T98)	916	31.5
X X	傷病および死亡の外因(V01-Y98)		
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因および保健サービスの利用(Z00-Z99)	622	3.9



別紙4 施設基準に掲げる手術件数
(医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術)

区分1に分類される手術		手術件数
ア	頭蓋内腫瘍摘出術等	96
イ	黄斑下手術等	19
ウ	鼓室形成手術等	16
エ	肺悪性腫瘍手術等	57
オ	経皮的カテーテル心筋焼灼術	94

区分2に分類される手術		手術件数
ア	靭帯断裂形成手術等	5
イ	水頭症手術等	73
ウ	鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	1
エ	尿道形成手術等	73
オ	角膜移植術	0
カ	肝切除術等	27
キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	27

区分3に分類される手術		手術件数
ア	上顎骨形成術等	24
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	21
ウ	パセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	0
エ	母指化手術等	9
オ	内反足手術等	0
カ	食道切除再建術等	13
キ	同種腎移植術等	31

その他の区分に分類される手術		手術件数
4	人工関節置換術	330
5	乳児外科施設基準対象手術	0
6	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	119
7	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	109
8	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	320

※1 手術件数は、平成22年1月から同年12月までの1年間の実績

医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術

区分1に分類される手術	適応症等	手術の種類等
ア 頭蓋内腫瘍摘出術等	脳腫瘍(下垂体腫瘍、脳・脳髄膜の転移性腫瘍)、くも膜下出血、破裂脳動脈瘤、脳内出血、硬膜外・硬膜下血腫など	○頭蓋内腫瘍摘出術 ○頭蓋内腫瘍摘出術 ○経鼻的下垂体腫瘍摘出術 ○脳動脈瘤被包術 ○脳動脈瘤流入血管クリッピング ○脳動脈瘤頸部クリッピング ○広範囲頭蓋底腫瘍切除・再建術 ○機能的定位脳手術 ○顕微鏡使用によるてんかん手術 ○脳刺激装置植込術 ○頭蓋内電極植込術 ○脊髄刺激装置植込術 ○脳神経手術(開頭して行うもの)
イ 黄斑下手術等	黄斑変性症、裂孔原性網膜剥離、糖尿病性増殖性網膜症、高血圧性網膜症、網膜変性疾患など	○黄斑下手術 ○硝子体茎頭微鏡下離断術 ○増殖性硝子体網膜症手術 ○眼窩内腫瘍摘出術(表在性) ○眼窩内腫瘍摘出術(深在性) ○眼窩悪性腫瘍手術 ○眼窩内異物除去術(表在性) ○眼窩内異物除去術(深在性) ○眼筋移植術 ○毛様体腫瘍切除術 ○脈絡膜腫瘍切除術
ウ 鼓室形成手術等	中耳炎、急性・慢性副鼻腔炎、扁桃の慢性炎症性疾患、扁桃周囲腫瘍、感音難聴、突発性難聴など	○鼓室形成手術 ○内耳窓閉鎖術 ○経耳的聴神経腫瘍摘出術 ○経迷路的内耳道開放術
エ 肺悪性腫瘍手術等	肺の悪性腫瘍、膿胸など	○肺悪性腫瘍手術 ○胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術 ○肺切除術 ○気管支形成を伴う肺切除術 ○胸壁悪性腫瘍摘出術 ○膿胸胸膜、胸膜肺底切除術(通常のもの)・膿胸胸膜、胸膜肺底切除術(胸腔鏡下のもの) ○膿胸腔有茎筋肉弁充填術 ○胸郭形成手術(膿胸手術の場合) ○気管支形成手術
オ 経皮的カテーテル心筋焼灼術	WPW症候群や心房粗細動などの不整脈	○経皮的カテーテル心筋焼灼術

区分2に分類される手術	適応症等	手術の種類等
ア 靭帯断裂形成手術等	膝関節靭帯損傷、肩、膝以外の関節捻挫、関節内軟骨損傷、変形性股関節・膝関節症など	○靭帯断裂形成手術(関節鏡下によるものを含む) ○観血的関節授動術 ○骨悪性腫瘍手術 ○脊椎、骨盤悪性腫瘍手術
イ 水頭症手術等	水頭症、くも膜下出血、破裂脳動脈瘤、未破裂脳動脈瘤	○水頭症手術 ○髄液シャント抜去術 ○脳血管内手術 ○経皮的脳血管形成術
ウ 鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	頭頸部の悪性腫瘍、鼻涙管閉塞など	○涙嚢鼻腔吻合術 ○鼻副鼻腔悪性腫瘍手術 ○上咽頭悪性腫瘍手術
エ 尿道形成手術等	尿失禁、尿道奇形・外傷、腎・尿路系・男性生殖器の腫瘍など	○尿道下裂形成手術 ○陰茎形成術 ○前立腺精嚢悪性腫瘍手術 ○尿道上裂形成手術 ○尿道形成手術 ○経皮的尿路結石除去術 ○経皮的腎盂腫瘍切除術 ○膀胱単純摘除術 ○膀胱悪性腫瘍手術(経尿道的手術を除く)
オ 角膜移植術	角膜の障害	○角膜移植術
カ 肝切除術等	肝臓の腫瘍、胆道系・胆嚢の腫瘍、胆石、胆嚢炎、胆管炎、先天性胆道閉鎖症、膵臓の腫瘍など	○肝切除術 ○膵体尾部腫瘍切除術 ○膵頭部腫瘍切除術 ○骨盤内臓全摘術 ○胆管悪性腫瘍手術 ○副腎悪性腫瘍手術

キ	子宮附属器悪性腫瘍手術等	女性生殖器系の悪性腫瘍、子宮筋腫、子宮頸管ポリープなど	<ul style="list-style-type: none"> ○子宮附属器悪性腫瘍手術(両側) ○卵管鏡下卵管形成術 ○腔壁悪性腫瘍手術 ○造陰術(拡張器利用によるものを除く) ○腔内閉鎖症術 ○女子外性器悪性腫瘍手術
---	--------------	-----------------------------	---

	区分3に分類される手術	適応症等	手術の種類等
ア	上顎骨形成術等		<ul style="list-style-type: none"> ○顔面神経麻痺形成手術 ○上顎骨形成術 ○頬骨変形治癒骨折矯正術 ○顔面多発骨折観血的手術
イ	上顎骨悪性腫瘍手術等	耳下腺、上顎骨、口腔咽頭、舌、顔面などの悪性腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> ○耳下腺悪性腫瘍手術 ○上顎骨悪性腫瘍手術 ○咽頭、下咽頭悪性腫瘍手術 ○舌悪性腫瘍手術 ○口腔、顎、顔面悪性腫瘍切除術
ウ	バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)	甲状腺機能障害	○バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)
エ	母指化手術等	母指切断	<ul style="list-style-type: none"> ○自家遊離複合組織移植術(顕微鏡下血管柄付きのもの) ○神経血管柄付植皮術(手・足) ○母指化手術
オ	内反足手術等	内反足、先天性気管狭窄症	<ul style="list-style-type: none"> ○内反足手術 ○先天性気管狭窄症手術
カ	食道切除再建術等	食道の腫瘍、食道炎、食道潰瘍、胃食道逆流症、食道狭窄、先天性食道閉塞症	<ul style="list-style-type: none"> ○食道切除再建術 ○食道腫瘍摘出術(開胸又は開腹手術によるもの、腹腔鏡・縦隔鏡下によるもの) ○食道悪性腫瘍手術(単に切除のみのもの) ○食道悪性腫瘍手術(消化管再建手術を併施するもの) ○食道切除後2次的再建術 ○食道裂孔ヘルニア手術 ○腹腔鏡下食道裂孔ヘルニア手術
キ	同種腎移植術等	急性・慢性腎不全	<ul style="list-style-type: none"> ○移植用腎採取術(生体) ○同種腎移植術

	その他の区分に分類される手術	適応症等	手術の種類等
4	人工関節置換術	膠原病(関節リウマチ、全身性エリテマトーデスとその合併症)、変形性股関節・膝関節症、変形性肩関節・肘関節・手関節・足関節症など	○人工関節置換術
5	乳児外科施設基準対象手術	先天性食道閉鎖症 胸腹裂孔ヘルニア 先天性心疾患 先天性胆道閉鎖症 鎖肛 仙尾部奇形腫 副腎悪性腫瘍 腎(尿管)悪性腫瘍	<p>【1歳未満の乳児に対する外科手術】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○先天性食道閉鎖症根治手術 ○胸腹裂孔ヘルニア手術 ○単心室症又は三尖弁閉鎖症手術(心室中隔造成術) ○完全大血管転換症手術 ○左心低形成症候群手術(ノルウッド手術) ○先天性胆道閉鎖症手術 ○肝切除術 ○鎖肛手術(仙骨会陰式及び腹会陰式並びに腹仙骨式) ○仙尾部奇形腫手術 ○副腎悪性腫瘍手術
6	ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	不整脈(頻脈性、徐脈性)	<ul style="list-style-type: none"> ○ペースメーカー移植術 ○ペースメーカー交換術(電池交換を含む)
7	冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。)及び体外循環を要する手術	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)	<ul style="list-style-type: none"> ○冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないものを含む。) ○体外循環を要する手術
8	経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈粥腫切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術	虚血性心疾患(狭心症、心筋梗塞)	<ul style="list-style-type: none"> ○経皮的冠動脈形成術 ○経皮的冠動脈血栓切除術 ○経皮的冠動脈ステント留置術